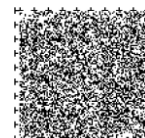


第 1 章 スポーツ推進計画策定に当たって

- 1 策定の背景・趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間
- 4 計画が対象とするスポーツの範囲
- 5 スポーツの力



1 策定の背景・趣旨

現在の社会は、超高齢社会、高度情報化の進行や社会構造の変化により、ライフスタイルや価値観が変化、多様化しています。人々のスポーツ活動についても、生涯にわたる心豊かな市民生活、健康や生きがい、仲間づくりといった生活の質（QOL=Quality Of Life）や自己実現など多様な目的により行われています。一方、日常生活における運動不足による生活習慣病など、健康への関心も高まっています。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災や、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震は、未曾有の被害をもたらし、現在も全国で復興支援への取組が行われています。この間、「心身の健康や癒し」「地域・家族の絆」などが再認識され、様々なアスリートの復興に向けた活動や市民スポーツによる交流で「スポーツの力」が、人々に勇気や希望を与える活動として着目されています。

調布市でも、平成 25 年 9 月 28 日から 10 月 14 日まで「東日本大震災復興支援スポーツ祭東京 2013（第 68 回国民体育大会・第 13 回全国障害者スポーツ大会）」が開催され、メイン会場である東京スタジアム（味の素スタジアム）での開・閉会式をはじめ、サッカーと陸上競技、障害者スポーツ大会の陸上競技とボウリングが行われ、多くの市民がスポーツに親しむ機会となりました。

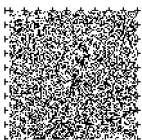
平成 25 年 9 月に開催が決定された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」という。）の招致も被災地の復興の歩みと大会の歩みを重ね合わせながらスポーツを通じた大きな力となるよう世界へアピールされました。また、平成 27 年 9 月には、ラグビーワールドカップ 2019™日本大会（以下、「ラグビーワールドカップ 2019」という。）の東京都の試合会場が新国立競技場から調布市にある東京スタジアム（味の素スタジアム）で開催されることが決定しました。市は、こうした世界最大級のスポーツイベントの開催に向け、多様な主体と連携しながら、有形・無形のレガシー創出を目指し、様々な取組を展開しました。

アジア初となる 2019 年のラグビーワールドカップでは、海外から 24 万人を超える人々を含めて延べ 170 万人の観客がスタンド観戦し、また世界中の人々にデジタルメディア¹や SNS²等を通じて試合が配信されました。大会では日本代表チームが初の決勝トーナメントに進出し、「ワンチーム」をスローガンに結束して戦う姿を通して、多くの人々が感動を分かち合いました。加えて、スポーツにおけるホスピタリティ³の

1 機械による読み取りが可能な記録形式でコード化された全てのメディアを指す。デジタルメディアはコンピュータ上で作成、閲覧、配信、修正、保存可能。

2 Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で、インターネット上で、ユーザー同士が繋がる場を提供するサービスの総称。「Facebook」、「X」（旧 Twitter）、「Instagram」、「LINE」など。

3 スポーツホスピタリティとは「する・みる・ささえる」スポーツを行う人々が、そこに「あつまる」ことで、これまで以上に「より良く楽しむ」ことを可能とする取組・行為全般を示す概念。スポーツ



向上に向けた取組をはじめ、6,400億円超とも言われる我が国への経済波及効果や、東日本大震災の被災地も含めた全国各地での開催がその地域の活性化に貢献するなど、我が国のスポーツ界や社会に大きく貢献することを通じて、スポーツの意義を再確認する契機となりました。市内の東京スタジアム（味の素スタジアム）においては、開会式・開幕戦を含む8試合が行われ、約38万人の観客が訪れるとともに、調布駅周辺では東京都が主催するファンゾーン⁴が開催され、16日間で延べ約13万人が訪れました。これらのことは、多くの市民の記憶に刻まれ、スポーツに対する関心や期待感が高まり、翌年に予定されていた東京2020大会に向けた機運の醸成につながりました。

しかしながら、令和2年に入り、世界的な規模で、新型コロナウイルス感染症の拡大が急速に進み、同年3月には、東京2020大会の1年延期が決定しました。国内のスポーツイベント等の開催自粛や全国一斉の学校休業要請が行われる中、同年4月には、我が国初の緊急事態宣言が発令され、人々の日常生活は一変し、スポーツ活動どころか外出することすらはばかれるような厳しい環境下での生活を送らざるを得なくなりました。

他方、新型コロナウイルス感染症の影響下にあって、様々なスポーツ活動が中止・延期等を余儀なくされ、スポーツに親しむ機会が失われていった一方で、我が国のスポーツ関係者は、そうした状況を打開するため、ガイドラインを策定して感染症対策を徹底し、無観客開催や入場者数制限、あるいはデジタルを活用した新しい観戦方法の導入といった様々な創意工夫を凝らしながら、スポーツイベントや児童・生徒、学生などの大会を開催するなど、スポーツを通じて、人々や社会を勇気づける取組、日常を取り戻す取組が続けられました。

こうした状況の中、令和3年夏、原則無観客での実施とはなりましたが、1年延期された東京2020大会が開催され、世界中から集まったトップアスリートによる数々の熱戦が繰り広げられ、国内の多くの人々にその様子が届けられました。市内では、東京スタジアム（味の素スタジアム）、武蔵野の森総合スポーツプラザ、都立武蔵野の森公園において6競技が開催され、無観客ながらも、世界最高峰のアスリートの熱戦が調布から世界へ向けて配信されました。

市は、こうしたラグビーワールドカップ2019及び東京2020大会を契機としたスポーツに対する機運の高まりを、今後ともレガシーとして継承・発展させていくことが重要です。とりわけ、東京2020大会においては、「多様性と調和」を基本的なコンセ

の観戦に食事やエンターテインメントを組み合わせたプロダクトなどを指す。

- 4 大型スクリーンによるパブリックビューイングや飲食の提供等、試合チケットの有無にかかわらず、無料で誰もが気軽に訪れることができる場として、ラグビーワールドカップ2019期間中に開催都市に設置された。都内では、東京都主催により、多摩地域と区部の2か所に設置された。区部は、有楽町の東京スポーツスクエアに、多摩地域は、調布駅前広場や調布市グリーンホール等に設置され、調布では全16日間で延べ13.2万人が来場した。

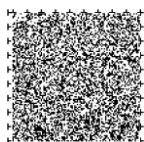


プトの一つとして、「オリ・パラ一体」がキーワードとしてあげられ、選手同士の交流や双方の競技等への理解が進みました。これらの大会全体を通して、性別、年齢、障害の有無、国籍等の違いを受け入れて、互いに認め合う共生社会を育むことの重要性が改めて認識されました。

市においても、東京 2020 大会を契機としたパラスポーツの普及・啓発、障害当事者の運動機会の創出や障害理解の促進への取組などを更に推し進め、共生社会の充実を図っていく必要があります。

また、市内の味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザを含むエリアは、多摩地域の一大スポーツ拠点となっており、市内を活動拠点とする F C 東京をはじめとしたトップスポーツチーム等とのパートナーシップを強化しながら、豊富なスポーツ資源を生かしたまちづくりを進めています。

本スポーツ推進計画は、こうした背景を踏まえ、市のスポーツを取り巻く現状と課題を整理し、豊富なスポーツ資源を活用しつつ、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の視点から、スポーツ推進に向けた方針や施策を体系化するものです。

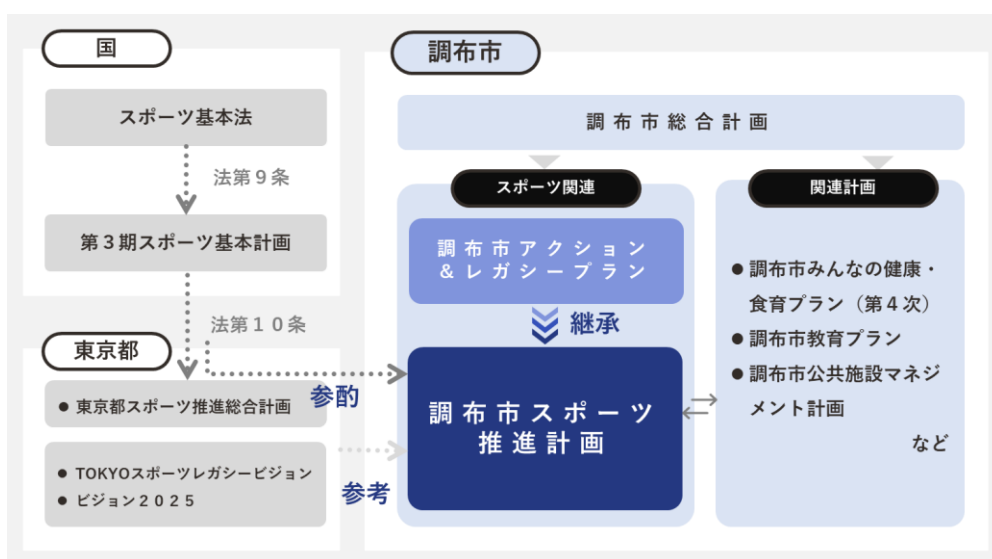


2 計画の位置付け

本計画は、スポーツを取り巻く現状と課題を整理し、豊富なスポーツ資源を活用しつつ、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の観点から、スポーツ施策を体系的に推進していくため、スポーツ基本法に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定するものです。

あわせて、本計画は、ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会のレガシーを踏まえるとともに、両大会を契機とした有形・無形のレガシー創出に向け策定・推進した「調布市アクション&レガシープラン」のスポーツ分野における取組の継承・発展を図るべく策定するものです。

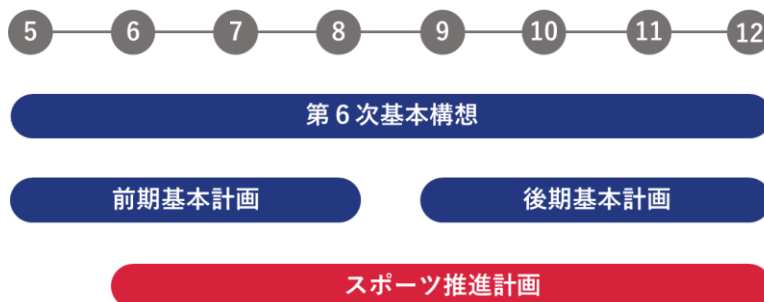
国や都の計画や、市の上位・関連計画との整合を図り、基本計画に掲げるスポーツ施策に基づいた事業を展開します。



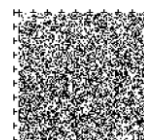
図表 1 計画の位置づけ

3 計画の期間

本計画は、調布市基本計画の計画期間と合わせ、令和6（2024）年度から令和12（2030）年度までの7年間とします。

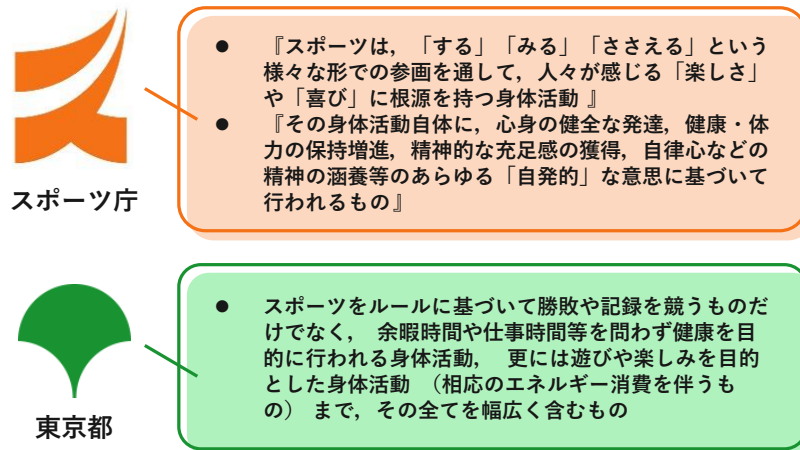


図表 2 計画期間

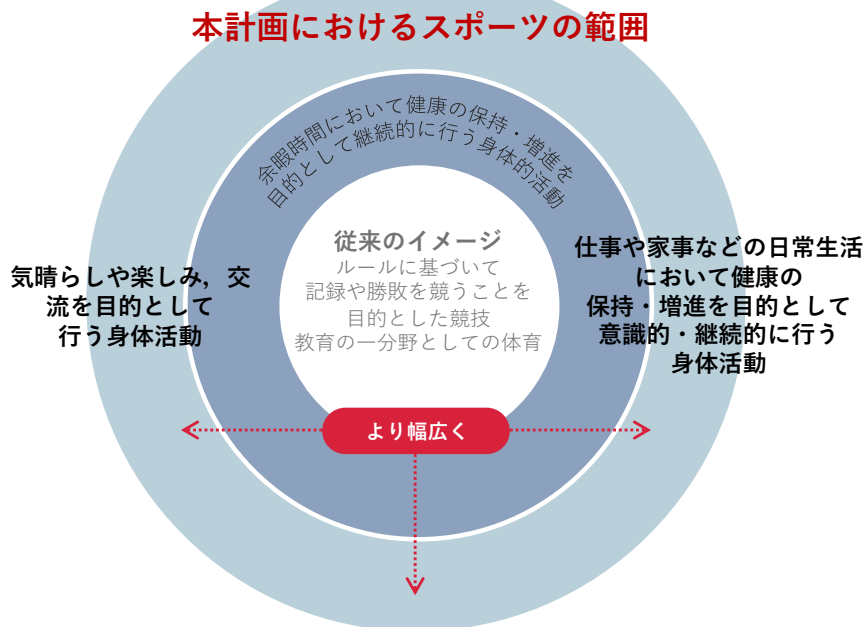


4 計画が対象とするスポーツの範囲

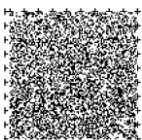
以下に示す国や都の捉え方を踏まえ、本計画では、野球やサッカー、ラグビーなどの競技種目やレクリエーション活動のほか、健康のための散歩や体操などの軽い運動、さらに徒歩や自転車による通勤や買い物などの日常生活における活動など、意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え、これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指します。



図表 3 国や都におけるスポーツの捉え方



図表 4 本計画におけるスポーツの範囲



コラム：eスポーツ

eスポーツとは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。

<世界的な動向>

平成30（2018）年時点では、IOCや国際競技団体による「オリンピック・サミット」の声明において、eスポーツについてオリンピック種目とすることは時期尚早であり、スポーツという言葉を使うことについて更なる対話と研究が必要と表明されました。一方で同年、「アジア版オリンピック」とも言われるアジア競技大会（第18回大会）ではeスポーツが公開競技として実施され、翌19回大会では正式種目として採用され、「FIFAOnline4（サッカーゲーム）」等7種目が設定されました。

令和3（2021）年には、IOCの公式スポーツ大会として、野球、自転車競技、ボート競技、セーリング、モータースポーツの5種目で「オリンピック・バーチャル・シリーズ」が開催されました。

<国内での動向>

eスポーツについては、現時点において様々な捉え方があります。

国民体育大会では、愛媛大会（2017年）、福井大会（2018年）の文化プログラムとしてeスポーツ大会が実施されました。また、茨城大会（2019年）以降の文化プログラムでは、都道府県対抗の形式で実施されてきており、佐賀大会（2024年）でも開催が決定しています。

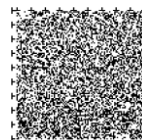
また60歳以上のスポーツの祭典「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」でも鳥取大会（2024年）から、eスポーツとして「太鼓の達人」が正式種目となるなど、シニアスポーツへの展開もみられます。

政府としても平成30（2018）年の段階から「未来投資戦略2018⁵」において、「新たな成長領域として注目されるeスポーツについて、健全な発展のための適切な環境整備に取り組む。」と記載しており、内閣府の知的財産戦略推進事務局が毎年まとめている「知的財産推進計画2019⁶」においても、「コンテンツ分野における新たな成長領域として注目されているeスポーツについて、関係省庁において、制度的課題の解消など健全な発展のため適切な環境整備に必要な応じて取り組むとともに、産学官やコミュニティが連携した取組を通じコンテンツだけでなく周辺関連産業への市場の裾野の拡大や、社会的意義・波及効果について検討を行うことが必要である。」と記載されています。

その他、令和元年度には経済産業省の旗振りのもと、eスポーツを活性化させるための方策に関する検討会が発足し、市場の成長可能性や社会的意義について報告がなされています。

5 政府による成長戦略。未来投資戦略2018では、『Society5.0』『データ駆動型社会』への変革-をテーマに掲げ、中小・小規模事業者の生産性革命のさらなる強化などといった重点分野を挙げている。

6 知財戦略を推進する際に重要となる政策課題と施策を整理している政府の計画。今後、日本において、多様なプレイヤーが世の中の知的財産の利用価値を最大限に引き出す社会の実現を目指すものとしている。



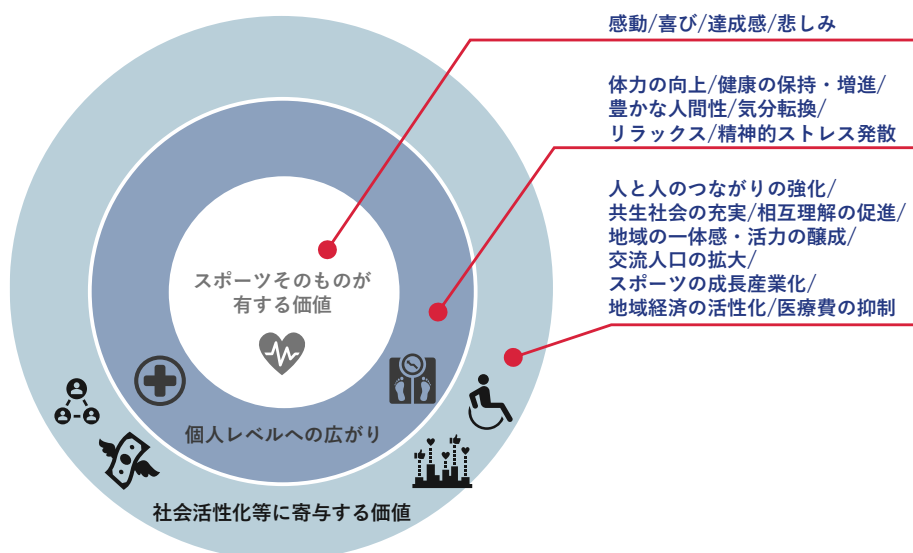
5 スポーツの力

人はスポーツを行うことによって、喜びや達成感を得たり、悲しみや挫折感を覚えたりもします。また、選手がスポーツに懸命に取り組む姿は、多くの人に感動を与えます。さらには、スポーツを「ささえる」もしくは「ささえられる」なかで、人と人との絆や思いやる心を育むことができると考えられます。このように、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを通じて、スポーツに「自発的」に参画し、「楽しさ」や「喜び」を得ることは、人々の生活や心を豊かにする「Well-being」の考え方につながるものです。これらは、性別や年齢、国籍を問わず誰もがスポーツから直接享受できるものであり、スポーツの内在的な力、いわば「スポーツそのものが有する価値」です。こうしたスポーツの価値を原点として大切にしつつ、更に高め、生涯を通じてスポーツを「好き」でいられる環境を整えていくことが不可欠です。

さらには、『スポーツの力』はこれだけに止まらず、周囲にも波及します。スポーツを継続的に実施することで体力が向上し、市民一人一人の健康の維持・増進に寄与するとともに、スポーツを通じた人と人とのつながりの強化、地域経済の活性化など、スポーツの外在的な力、いわば「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」といった側面もあります。

このように、スポーツには、市民の生活向上に重要な役割を果たす多様な力が秘められています。

市は、これらの『スポーツの力』を全ての市民が享受できるようスポーツ振興に取り組めます。



図表 5 スポーツに期待される効果

